

防災対策調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和 6 年 4 月 11 日（木）
午前 9 時 24 分 開会
午前 10 時 30 分 閉会
- 2 場 所 第 3 委員会室
- 3 出席委員 委員長 米田 達也
副委員長 義本 みどり
委員 石田 清、木谷 敏勝、
福田 嗣久、村岡 峰男
- 4 欠席委員 小森 弘詞
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主幹兼総務係長 山本 雅彦
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

防災対策調査特別委員長 米田 達也

防災対策調査特別委員会 次第

日 時：2024 年 4 月 11 日（木） 9：30～

場 所：第 3 委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 自己紹介

4 月 1 日付け人事異動

4 協議事項

(1) 委員会所管事項の事務概要について

- | | |
|---------|-------|
| ○ 危機管理部 | 危機管理課 |
| ○ 都市整備部 | 建設課 |
| ○ 上下水道部 | 下水道課 |

※報告事項（危機管理課）

(2) 管外行政視察について

(3) その他

5 閉 会

防災対策調査特別委員会名簿

=欠席

【委 員】

職 名	氏 名
委 員 長	米 田 達 也
副 委 員 長	義 本 みどり
委 員	石 田 清
委 員	木 谷 敏 勝
委 員	小 森 弘 詞
委 員	福 田 嗣 久
委 員	村 岡 峰 男

7名

【当 局】

職 名	氏 名	職 名	氏 名
危機管理部長	畑中 聖史	危機管理課長	木下 喜晴
健康福祉部長	原田 政彦	健康増進課長	宮本 和幸
		健康増進課参事兼保健センター長	村尾 恵美
コウノトリ共生部長	坂本 成彦	農林水産課長	浪華 誠
		農林水産課参事	村田 一紀
		農林水産課参事	山本 隆之
		農林水産課参事	西村 文紀
都市整備部長		建設課参事	北村 省二
		建設課参事	村田 光弘
		建設課参事	羽渕 浩史
城崎振興局長	富岡 隆	地域振興課長	山根 哲也
竹野振興局長	石田 敦史	地域振興課長	小林 昌弘
日高振興局長	柳沢 和男	地域振興課長	吉田 政明
出石振興局長	宮崎 雅巳	地域振興課長	三宅 徹
但東振興局長	大岸 和義	地域振興課長	道下 一
上下水道部長	川端 啓介	下水道課長	榎本 啓一
		下水道参事	野畑 修身
消防長	井崎 博之	本部参事	向井 雅人
		本部参事	土肥 貢

29名

【議会事務局】

職 名	氏 名
主幹兼総務係長	山本 雅彦

2024 年度（前期）防災対策調査特別委員会の重点調査事項

- 1 本庁・振興局の防災体制ならびに庁内事業継続計画（ＢＣＰ）について
- 2 内水処理対策について
- 3 河川・土砂災害対策（円山川緊急治水対策、危険度判定システム等）について
- 4 地震・津波対策について
- 5 高潮対策について
- 6 原子力事故災害対策について
- 7 雪害対策について
- 8 自主防災組織について
- 9 市民（子どもを含む）防災意識の向上について
- 10 感染症対策等について

午前9時24分開会

○委員長（米田 達也） ただいまから防災対策調査特別委員会を開会いたします。

皆さん、おはようございます。2月14日の臨時委員会に引き続きまして、今日は事務概要ということで、説明のない当局の皆様もご出席いただきまして、短時間で終わることかと思いますので、皆様、どうか慎重審議のほどよろしくお願いいたします。

まず、本日の委員会に欠席届のありましたのは小森委員でありますので、ご了承願います。

次に、宮崎出石振興局長が本日の委員会を欠席する旨の申出がありましたので、ご了承願います。

それでは、協議に入ります前に、3番の自己紹介です。

今回は年度当初の委員会であります。4月1日付の人事異動で防災対策調査特別委員会所管の当局職員に異動がありましたので、ここで自己紹介をいただきたいと思います。

まず委員からですが、改めまして、私は委員長の米田でございます。若輩者ではございますが、よろしくお願いいたします。

○委員（義本みどり） 副委員長の義本です。よろしくお願いいたします。

○委員（福田 嗣久） おはようございます。福田と申します。よろしくお願いいたします。

○委員（石田 清） 石田と申します。よろしくお願いいたします。

○委員（木谷 敏勝） 木谷です。よろしくお願いいたします。

○委員（村岡 峰男） この部屋で唯一の後期高齢者です。いたわりの心でよろしく。村岡です。

○委員長（米田 達也） 次に、危機管理部から名簿に記載された順でお願いいたします。最後に、事務局お願いします。

○危機管理部長（畑中 聖史） 危機管理部長の畑中です。委員長にいじられていじられてしておりますけれども、頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○危機管理課長（木下 喜晴） 危機管理課長の木下

喜晴と申します。よろしくお願いいたします。

○健康福祉部長（原田 政彦） 健康福祉部の原田です。どうぞよろしくお願いいたします。

○健康増進課長（宮本 和幸） 健康増進課長の宮本です。よろしくお願いいたします。

○健康増進課参事（村尾 恵美） 健康増進課参事の村尾と申します。よろしくお願いいたします。

○コウノトリ共生部長（坂本 成彦） コウノトリ共生部、坂本です。よろしくお願いいたします。

○農林水産課長（浪華 誠） 農林水産課長の浪華です。よろしくお願いいたします。

○農林水産課参事（村田 一紀） 農林水産課、村田です。引き続きよろしくお願いいたします。

○農林水産課参事（山本 隆之） 農林水産課の参事、山本です。よろしくお願いいたします。

○農林水産課参事（西村 文紀） 失礼します。農林水産課参事の西村です。よろしくお願いいたします。

○建設課参事（北村 省二） おはようございます。建設課参事の北村です。よろしくお願いいたします。

○建設課参事（村田 光弘） おはようございます。建設課参事の村田といいます。どうぞよろしくお願いいたします。

○建設課参事（羽瀨 浩史） おはようございます。4月から建設課の参事になりました羽瀨です。よろしくお願いいたします。

○城崎振興局長（富岡 隆） おはようございます。4月から城崎振興局長を拝命しました富岡と申します。よろしくお願いいたします。

○城崎振興局地域振興課長（山根 哲也） おはようございます。城崎振興局地域振興課、山根でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○竹野振興局長（石田 敦史） おはようございます。竹野振興局の石田でございます。昨年度に引き続いてということで、よろしくお願いいたします。

○竹野振興局地域振興課長（小林 昌弘） 竹野振興局地域振興課、小林です。どうぞよろしくお願いいたします。

○日高振興局長（柳沢 和男） 失礼いたします。日高振興局長の柳沢です。どうぞよろしくお願いいたします。

します。

○日高振興局地域振興課長（吉田 政明） 失礼いたします。4月から日高振興局地域振興課長となりました吉田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○出石振興局地域振興課長（三宅 徹） 出石振興局地域振興課課長の三宅です。よろしくお願いいたします。

○但東振興局長（大岸 和義） 但東振興局長の大岸です。どうぞよろしくお願いいたします。

○但東振興局地域振興課長（道下 一） 但東振興局地域振興課、道下です。よろしくお願いいたします。

○上下水道部長（川端 啓介） 上下水道部の川端です。引き続きよろしくお願いいたします。

○下水道課長（榎本 啓一） 失礼します。下水道課、榎本です。どうぞよろしくお願いいたします。

○下水道課参事（野畑 修身） おはようございます。4月の人事異動で下水道課参事を賜りました野畑です。よろしくお願いいたします。

○消防長（井崎 博之） 消防本部消防長の井崎でございます。よろしくお願いいたします。

○消防本部参事（向井 雅人） 消防本部参事の向井です。よろしくお願いいたします。

○消防本部参事（土肥 貢） おはようございます。4月から消防本部参事になりました土肥です。よろしくお願いいたします。

○事務局主幹兼事務局総務係長（山本 雅彦） 失礼します。4月から議会事務局に配属になりました、この委員会の事務局を担当いたします山本です。よろしくお願いいたします。

○委員長（米田 達也） 紹介は終わりました。

それでは、4番の協議事項に入ります。

現在、常任委員会、特別委員会の会議録を市議会ホームページで公開しています。つきましては、委員の皆さん、当局の皆さんにおかれましては、次の2つの点にご留意願います。

1つ目は、数字や年月日などについて、言い間違いのないように正確にお願いいたします。

2つ目は、個人情報や未確定事項などについて、

不適切な発言がないように慎重を期してください。

まず、（1）委員会所管事項について、別添資料として、本日、2024年度豊岡市事務概要をタブレットのほうに掲載しております。

事務概要書に基づき、当局から説明を一通り受けた後に各委員から質疑を受けたいと思いますので、次第に記載の危機管理部、都市整備部、上下水道部の順でお願いしたいと思います。

それでは、危機管理部危機管理課よりお願いします。

危機管理課、木下課長。

○危機管理課長（木下 喜晴） 失礼します。

資料の3ページお開きください。危機管理課からは、重点事項といたしまして、津波避難行動の検証と津波避難対策についてということで掲ささせていただきます。

まず、現況と課題でございます。2024年1月1日に石川県能登半島地方を震源とする地震によりまして津波が発生しております。16時10分に津波注意報、16時22分に津波警報が発表されております。

市では、防災行政無線、ひょうご防災ネット、市の公式LINE等で沿岸部付近及び河川付近の方へ避難行動を呼びかけました。それによりまして、多くの市民が避難行動を取っていただきました。アンケートのほうを実施しておりまして、実際6割の方が避難をされたというふうな集計になっております。一方で、避難に当たっての課題のほうも明らかとなっております。

主な課題といたしまして、（1）避難の呼びかけには避難指示として強く呼びかける必要がある。

（2）屋外の津波避難場所は、寒い、トイレがないなど、長時間の避難ができない。（3）屋内の津波避難場所は、開錠されず、施設の中に入れなかった。また、市の防災対策体制についても適切であったかを問うような意見も寄せられております。

基本方針といたしまして、市民の津波避難行動と津波避難に係る課題を明らかにするため、港地区、城崎地域及び竹野町の竹野地区の住民の皆さんに

ご協力いただいて、市民津波避難アンケートを2月に実施をさせていただいております。現在、アンケートの単純集計を終えたところという段階です。現在、兵庫県立大学によります津波避難行動の分析・検証作業のほうを依頼しておりまして、津波避難対策の課題を検証し、課題の解決を図りたいというふうに考えております。

概要でございます。1番、豊岡市市民津波避難アンケートについての今後の予定といたしまして、5月下旬にはアンケートの中間集計を取りまとめまして、アンケート実施地域におきましては、市政懇談会で中間集計の報告を予定しております。6月末には兵庫県立大学のほうからアンケート結果の報告書等の成果品を納めていただきます。7月には市のホームページ等で報告書の概要の掲載を予定しております。

2といたしまして、津波避難情報の発信の確認・検討を行います。アンケート等で明らかになった課題に対応するため、津波注意報、津波警報の発表に合わせた避難指示の発令などの検討を行ってまいります。津波からの避難をさらに後押しするために、津波警報が出れば避難指示ということも現在は検討しておりまして、市民に津波によります避難指示を的確に伝えるための方法の検討を行っておるところでございます。

3番目といたしまして、津波による避難指示発令時の市民の行動の啓発を行います。津波警報発表中の市民の取るべき避難行動と津波警報の解除まで避難行動が必要だといったことを市民に啓発を続けてまいりたいと思っております。

4番といたしまして、津波の指定避難場所の確認・検討を行います。最短10分で到達する津波に対応した高台など、命を守る津波避難場所への安全な経路の確保ですとか、長時間の避難に耐えられる対策の在り方について検討を行いたいと思っております。（2）といたしまして、屋内の津波避難場所の休日や夜間の鍵開錠に関する検討を行いたいと思っております。

5番目といたしまして、津波避難訓練の実施を上

げております。11月5日に予定されております兵庫県の津波一斉避難訓練に合わせた津波避難訓練、こちらのほうを実施したいというふうに考えております。

6番、その他といたしまして、市民津波避難アンケートの結果によりまして、自助、共助、公助、それぞれの役割で必要な事項を見直し、検討を行ってまいります。2番目といたしまして、市の防災対策の体制についても、見直し、検討を進めてまいります。

現在、アンケート結果といったことで、その集計を待っておるところでございますが、アンケート結果から得られる課題を待つまでもなく、現時点として課題として認識しておりますものについては、早急に対応してまいります。また、アンケート結果で明らかになった課題については、その重要度を考慮して解決に向けた取組を進めてまいりたいと思っております。

危機管理課からは以上です。

○委員長（米田 達也） 次に、都市整備部建設課、お願いします。

建設課、村田参事。

○建設課参事（村田 光弘） 5ページをご覧ください。除雪対策事業の推進についてご説明いたします。

現況と課題です。冬期における交通確保では、車道約630キロ、歩道約115キロ、合計しますと約745キロの市道等を187台の車両により除雪作業を行っております。この距離は、直線距離で本市から岩手県盛岡市までになります。

課題ですが、除雪機械等の老朽化が進んでいく中で、受託業者の所有する機械の更新が進まない状況であるとともに、作業員の高齢化により委託業者の確保が困難な状況になりつつあります。

概要です。1番、除雪対策として、（1）除雪機械の更新等では、今年度は小型除雪機1,000ミリ級、これは除雪幅が1メートルの乗用の歩道除雪車を1台更新し、但東地域に配備します。また、ハンドガイド式除雪機1,100ミリメートル級、これは除雪幅が1.1メートルの手押しの歩道除雪機

を1台更新し、竹野地域に配備します。

2、消雪設備更新等につきましては、消雪装置の点検や使用時に問題のあった施設を対象に修繕を実施しております。

ア、市道赤崎江原線地質調査・設計は、日高町岩中地内にある消雪装置井戸の水量不足を確認しましたので、消雪水の確保をするための調査を実施し、検討を行います。

イ、市道大篠岡駄坂線消雪ポンプ更新工事は、駄坂地内において、老朽化により機能低下や揚水能力の低減が確認された消雪ポンプの更新を行うものです。

ウ、市道東山一の湯線消雪施設更新工事は、城崎町湯島地内にある消雪設備の更新をするものです。今年度は300メートルを実施いたします。

オ、市道赤崎江原線消雪施設修繕工事は、日高町宵田ほか地内において、全体延長870メートルのうち、今年度は260メートルを実施いたします。この工事は、2022年度から2025年度の4か年で完成を目指しております。

カ、市道中山虫生線消雪施設更新工事は、但東町中山地内において、全体延長1,000メートルのうち、今年度は200メートルを実施いたします。この工事は、2022年度から2026年度の5か年で完成を目指しております。

(3) 豊岡市除雪機整備事業補助金につきましては、市内の自治会及び地域コミュニティ組織を対象に、市道、生活道路等を除雪を行うために購入する除雪機について、その購入経費の一部を助成するものです。2023年度より行っている補助金となっております。昨年度の申請件数は20件となっております。

説明は以上です。

○委員長(米田 達也) 建設課、北村参事。

○建設課参事(北村 省二) 私のほうからは、6ページをご覧ください。円山川水系河川整備事業の推進について、国が事業主体となる工事についてご説明をいたします。

現況と課題ですが、2013年度から円山川水系

河川整備計画を基に、河川整備事業が実施されております。あわせて、水防災意識社会再構築ビジョンにおける危機管理型ハード対策として、堤防の強化等が行われております。また、治水安全向上のために、国と県及び市が綿密なる連携を基に、今後も住民の意見を尊重しながら、積極的な事業の推進を図ることが必要と考えております。

概要の説明をさせていただきます。1、円山川水系河川整備計画から、(1)下流部無堤対策として、アの瀬戸・津居山地区では、漁協関係者や地元役員への説明会を継続して実施されております。工事の実施については、上流部から実施されており、現在のところは未定とお聞きしております。イのひのそほか地区では、地元調整、護岸整備ほか工事が実施されたとお聞きしております。

(2)遊水地整備では、アの中郷地区下池では、排水樋門ほか工事が継続して実施されたとお聞きしております。また、上池についても築堤ほか工事を実施されます。

(3)上流部無堤対策では、アの日置地区では、用地取得、道路改良工事、築堤工事を実施されます。イの鶴岡地区についても、用地取得、築堤ほか工事が実施されます。ウの日高地区については、暫定堤防が完成し、引き続き墓地移転に向け、関係者との調整を実施されます。

(4)堤防強化整備では、アの立野地区において、堤防強化ほか工事が実施されます。

2ですけれども、要望活動として、近畿直轄河川治水期成同盟会連合会で国交省や財務省のほうに要望を予定しております。また、必要に応じ、随時要望活動を実施しております。

以上で建設課の説明を終わります。

○委員長(米田 達也) 次に、上下水道部下水道課、お願いします。

下水道課、野畑参事。

○下水道課参事(野畑 修身) 7ページの雨水整備事業について説明させていただきます。

現況と課題、基本方針についてですが、雨水整備事業は、雨水幹線39.7キロの計画に対して約1

6. 6キロの整備を終え、整備率は約41.9%となっています。今後も市の財政状況を勘案しながら雨水整備事業を進めるとともに、今年度は内水浸水想定区域図の作成に取り組んでまいります。

2024年度の予定事業としましては、内水浸水想定区域図の作成業務を雨水幹線整備計画のある38排水区、1,743ヘクタールにおいて実施する予定です。内水浸水想定区域図は、作成業務終了後、公表に必要な説明書きや注意書きなどを加えた後、市のホームページ等に公表を予定しています。

説明は以上です。

○委員長（米田 達也） 説明は終わりました。

質問等はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（米田 達也） それでは、ないようですので、事務概要については、この程度でとどめておきたいと思います。

ないようでしたら、この後、報告事項があります。危機管理部以外の当局の皆さんは退席していただいて結構です。お疲れさまでした。

次に、当局からの報告事項についてですが、危機管理部危機管理課から報告について申出があり、これを許可しておりますので、ご了承願います。

それでは、危機管理部危機管理課から、豊岡市市民津波避難アンケート中間集計について、説明をお願いいたします。

木下課長。

○危機管理課長（木下 喜晴） 失礼いたします。

お手元のほうにPDFのデータで、市民津波アンケートの中間報告といったことで見ていただけたかと思っております。

まず、1ページ目のほう、概要のほうに書かせていただいております。見ていただいたとおりでございますが、調査地域といたしまして、豊岡市沿岸付近及び河口付近となります、港地区、城崎地区、竹野地区の方をお願いしております。

調査対象としましては、上記の3地区に居住する全世帯のうち、世帯のうち1人の方が代表して回答していただいたという格好です。広報と併せて配付

をしましたので、全3,034世帯に対してアンケートのほうを配付させていただきました。回答数といたしまして1,528といったことで、回収率50.8%、ちょうど半分ほどの回収をいただいております。

その下のほう、表のほうにつけさせていただいておりますが、それぞれのアンケートの結果です。1,525返ってきたわけですが、大体3割ずつくらいの回答をいただいておりますというふうな格好でございます。

その次のページをご覧ください。次のページですが、それぞれ回答をいただいた方のお住まいをお尋ねしたものでございます。こちらのほうはご覧ください。

次のページからが、細かいちょっとアンケートの内容のほうになってまいります。3ページ目になります。

まず、性別をお聞きをしております。男性が6割、女性の方が4割というふうな回答でございました。

次のF3の問いにつきましては、回答者の年齢をお聞きしております。見ていただいたとおり、60代、70代が多いといったような格好で、60代以上が7割の方の回答だということでもありますので、全体を見ていく中でも、回答者が高齢の方が多いということに注意しながら検証等を行っていく必要があるなと思っております。

F4につきましては、お答えいただいた方の世帯の人数をお尋ねしております。平均の世帯人数が2.69人といったことで、範囲としましては、お一人の世帯から9人までの世帯というふうな回答をいただいております。

その次のF5につきましては、世帯の特徴といったことでお尋ねをしております。70歳以上の方がおられる家庭のほうに6割、体が不自由、寝たきりの方がいらっしゃる方が1割、小学校以下の子供がいるということが8割、そういうものに該当しないという方が3割というふうな方から回答をいただいております。

次のページ、4ページ目、F6の調査でございま

す。こちらについては、平成30年に津波避難の、津波の浸水の想定される区域、今回アンケートをさせていただいた区域のほうに配付をしました津波ハザードマップ、こちらを認知されてますか、知つとられますかというふうなことをお尋ねしたのになります。内容まで覚えておられるという方が20%、見たことはあるけど内容は覚えていないという方、これが最も多くて44.7%、見たことがないという方が14%というふうな格好でございます。

結果といたしましては、ハザードマップの周知徹底がちょっと不足をしているのかなというふうに危機管理課では感じているところでございます。

続きましての問いは、その津波の浸水区域かどうかというのを聞きをしているところでございます。これ、津波の浸水区域かどうかというのは、津波のハザードマップを見ていただかないとご回答をいただけないものだというふうには思っておりますが、津波の浸水想定区域の中だと答えていただいた方が45%、区域ではないと答えていただいた方が20%、分からないとお答えいただいた方が34%といったような格好でございます。

一番気になるのが分からないとお答えした方で、この方については、津波などの避難について、自ら避難が必要なのかどうか判断ができないといったことは課題なのかなというふうに思っております。

F8の問いにつきましては、自宅から津波の避難場所、安全な場所までの所要時間といったことでお尋ねしております。10分以内に避難できるよという方がトータルで77%、4分の3程度、15分以上かかるという方が1割程度いらっしゃるというふうな状況でございました。

ここまでがそれぞれのアンケートにお答えいただいた方の属性についてお尋ねをしたものになりまして、次のページからが津波の避難行動についてお尋ねをしたところになります。

問いの1番目、こちらのほうは地震発生時にいた場所のほうをお尋ねしております。それぞれ、港、

城崎、竹野、3割ずつくらいというふうな配分になっております。

問いの2番目につきましては、まず、緊急地震速報が携帯電話に届きます。その緊急地震速報を聞いて、姿勢を低く、頭を守り、動かないといった、安全確保行動を取ったかといったことをお聞きしたものでございます。安全確保行動を取ったという方が35%、安全確保行動を取らなかったといったことが60%といったところでございます。命を守るための安全確保行動、いわゆるシェイクアウトの行動といったことで広報等でもお知らせをしとるんですが、緊急地震速報が鳴っても何もされなかったという方が非常に多いといったところでございますので、こちらの徹底のほうをしていきたいと思えます。

こちら、ちょっと一部クロス集計かけさせていただいて、どの層が一番安全確保行動を取ったかなというのをちょっと確認しておりました。30代、やっぱり若い方、非常に意識が高いといえますか、学校でも習ったということもあったようで、安全確保行動を取ったという方が6割ということでございました。それから、どんどん年齢が上がるにつれて安全確保行動を取っていないというふうな傾向が見られております。

問いの3番目です。こちらのほうにつきましては、安全確保行動を取らなかった方に、何で安全確保行動を取らなかったのかといったことをお尋ねしております。一番多い回答が、安全確保行動をする必要がないと思ったということでございます。何を思っていないと思われたのかなというところは、ちょっとこのアンケートでは見えないんですが、安全確保行動は必要だといったことをしっかりお伝えをしていきたいというふうに思っております。

ページ移らせていただきます。問いの4番目でございます。こちらにつきましては、津波警報を見聞きしたかお尋ねしております。95%の方が見聞きしたというふうにお答えをいただいております。

次の問いの5番目、その見聞きした津波警報の内容をお尋ねしてあります。ご回答いただいた中では、津

波の高さ、津波の到達予想時間といったところをしっかりと聞きをいただいておりますということが分かりました。

問いの6番目です。津波警報をどこで見聞きしましたかというお尋ねをしております。最も多かったのがやっぱりテレビ、75%、市の防災行政無線6割、携帯電話等に届く緊急速報メールが55.5%ということでございます。また、家族、知人、友人といった方も2割方あったといったところで、これも非常に大きく効いているのかなというふうに思っております。

ページ移ります。問いの7番目です。こちらのほうにつきましては、津波警報を見聞きして津波が来ることを想像しましたかといったような問いでございます。必ず津波が来る、来るかもしれないを合わせますと、半数以上の方が津波が来るということイメージされたというところでございますが、一方で、4割の方が津波は来ないというふうなイメージをされておったというところでございます。こちらについては、津波があまり想定されてない城崎地域の方も3割お答えいただいておりますので、地域別の分析を入れさせていただいて、竹野とか港とか、津波に直接影響のあるところとの差異は確認をしていく必要があるなと思っております。

問いの8番目でございます。こちらにつきましては、津波警報を見聞きして避難について考えたことをお聞きしたところでございます。避難しなければ危険、念のために避難をしたほうがよいと思われた方が6割、6割の方が避難を考えたというふうな回答でございます。一方、33%の方、避難しなくても安全というふうにお答えをいただいております。こちらのほうも地域別の集計をかけていく必要があるなというふうに思っております。

問いの9番目です。こちらにつきましては、津波警報後の行動をお聞きしております。津波警報が来た後、何をしましたかというところでございますが、避難の準備をしたという方が半数、情報の入手といった方が38%。一方、特に何もなかったといっ

た方が15%、こちらのほうは、津波の浸水のエリアのない方が何もしなかったというのでしたら別に問題ないんですが、その辺りもちょっと確認をしていきたいと思っております。

問いの10番目です。次、こちらのほうは、津波から避難をしましたかという問いでございます。避難をした方が56.9%、避難しなかった方が、おむね4割ということです。こちらのほう、前の質問でありました、ハザードマップ認知されてますかという問いのほうで、ハザードマップの存在を知らないという方が半数いらっしゃる中で、避難しなかったということがありますので、津波ハザードマップの内容、これについても改めて啓発が、この分見ても必要だなというふうに感じておるところでございます。

ページ移りまして、問いの11番目です。津波から逃げるためのどこに避難しましたかといったところを書いております。こちらのほうなんですが、アンケートのほうでは、皆さんが避難されたとき何人ぐらいいらっしゃいましたかという問いをしておりますが、大きな差が出ます。もう日和山なんか何人おったか分からへんというふうな回答でしたので、回答の多かったといえますか、度数のほうで数値のほうを示させていただいております。

港地区では一番多かったのが、やっぱり日和山、全体お答えいただいた241人のうち半分、51.5%の方が日和山に避難されたというふうな結果でございます。竹野地区につきましては、竹野庁舎ですとか竹野中学校、竹野小学校というところが多いところでございました。

ページ移りまして、問いの12番目です。避難したきっかけは何ですかという、きっかけをお聞きしたものでございます。こちらについては、津波警報を見聞きしたという方が67.8%、テレビ、ラジオが避難を呼びかけ、42.5%、緊急速報メールで避難通知があった、38.2%、また、その次に多かったのが、家族が避難しようと言ったからというのがありまして、やっぱり家族の方の声というのは非常に効くのだなというところでございます。

我々、啓発の中でも、小学校でしっかり子供たちは防災教育を受けている、だから、子供の言うことはしっかり聞いて逃げてくださいねということを地域のほうでもお伝えをしていますので、やっぱり家族からの避難、呼びかけというのは一番効くのかなと思っておるところでございます。

問いの13番目です。避難の開始した時間をお尋ねしております。津波警報発表から10分以内に避難をされたといった方が、トータルしますと7割に上っております。また、津波到達予想時刻の17時までに避難された方になると、9割までが避難をされておったというふうな状況でございます。

避難した方に次お尋ねしておるのが、問いの14でございます。どのような手段で避難されましたかといったところで、車が6割、徒歩が4割というところでございます。こちらのほう、ちょっと前のほうで設問のありました避難場所までどれくらい時間かかりますかというものとちょっとクロスをかけてみましたところ、避難場所まで5分以内の方であれば徒歩、一方、5分より時間がかかる方は自動車というふうな傾向が見えたところでございます。

ページ移りまして、問いの15になります。こちらのほうは、避難に車を使用した理由をお尋ねしたものでございます。一番多かったのが、車であれば雨風がしのげる、情報も得られるといったところ。2番目に多かったのが、家族みんなで避難するため。3番目が、安全な場所まで遠かったといったようなところでございます。

問いの16番目、こちらのほうは、避難を終えた時間をお尋ねしたものでございます。こちらのほうですが、津波警報が解除されていないにもかかわらず、19時台の時点で、一番、満潮の時間を一つの目安にされておったのかなと思うんですが、19時台までに8割の方が帰宅をされておるというところでございます。ちょっと課題があるところだなというふうに思っております。

その津波警報が解除となるまでに避難をやめた理由をお尋ねしております。ここで一番多かったのが、6番目の同じ場所にいた避難者が帰宅を始めた

ためといった方が6割というところでございます。これにつきましては、安全かどうかという観点ではなくて、いわゆる同調性バイアス、みんなが帰るから私も帰るといったところで、ちょっとここは課題になる部分かなというふうに思っておるところでございます。

ページ移りまして、11ページ目です。問いの18です。避難しようと思ったが避難できなかったという方にお尋ねをした設問になりまして、その理由は何ですかというところでございます。見ていただいたとおり、自力で歩くのが困難だったといったのが45.8%、迷っているうちに避難し損ねたといった方が2割というふうなところでございます。

また、問い10のほうで避難しなかったとお答えいただいた方に、何で避難しなかったんですかといったところをお尋ねしたものでございます。一番多かったのが、予想される津波の高さでは被害が出ないと思ったというのが一番多く、こちらのほうが、津波ハザードマップを理解した上で被害がないと判断されたのかというところはちょっとクロス集計をかけていかなくってはならないなと思っております。

次に多かったのが、揺れの具合から、この地域には津波が来ないと思ったといったところでございます。今回、遠地の地震でしたので震度はありませんでしたが、地震と津波の関係、こちらについて、ちょっと間違った認識をお持ちの方が多いのかなというふうに思っております。この辺り、正しい地域の普及が必要だというふうに認識をしております。

ページ移りまして、問いの20でございます。こちらのほうは、能登半島地震が起こる前に取り組んでいた地震、津波の備えをお尋ねしたものでございます。一番多い回答で、津波避難訓練に参加というのが34.8%ということでしたが、こちら、今分析をお願いしております兵庫県立大学の教授のほうのコメントといたしまして、ほかの地区に比べて備えている率が低いというふうな印象を持ったというふうなコメントをいただいております。

ろでございます。いわゆる自助の取組の啓発、こちらのほうはやっぱり必要だということで、改めて認識をしておるところでございます。

問いの21番目、こちらにつきましては、地域のほうで避難訓練等ありましたかというお尋ねでございます。55%の方が、半数の方が取組があって参加していただいたという回答をいただいております。

次のページ、最後の問いになります。問いの22でございます。今回の津波の経験を受けまして、今後の津波対策に関して教訓とすべきことは何かということをお尋ねしております。いずれも5割程度の回答になっておりまして、分析をいただきます兵庫県立大学のほうからは、今回の経験が教訓とすべきことはあまり理解されていないのではないのかなというふうなご指摘を受けております。

また、一番危惧しなくてはならないのが、5の回答の、一度避難したら津波警報が解除されるまで自宅に戻らない、こちらのほうが18.9%といったことで、ほかの回答よりも極めて低いような状態です。

今回の津波警報の結果、たまたま津波が小さく被害がなかった、これが悪い例にならないのかなというのを非常に心配しております。次、津波警報が来たときも、同じ30センチ、40センチではないんだよというようなことの啓発は引き続きしていくことが必要だと思っております。

以上で、アンケートの単純集計の結果の報告といった形で報告のほうを終わらせていただきます。

現在、兵庫県立大学のほうと協議しながら、複数の設問、クロスさせるなどによりまして、より傾向を捉えまして、課題の顕在化するための作業を行っております。事務概要でもお伝えしましたとおり、アンケートの実施地域には市政懇談会の中で中間集計の報告ですとか、6月末にはアンケート結果の報告等をさせていただきます、そこで受け入れました課題等につきましては、解決についての取組を進めてまいりたいというふう考えております。以上でございます。

○委員長（米田 達也） 説明は終わりました。

何か質問があれば挙手をお願いします。

村岡委員。

○委員（村岡 峰男） 一番最初の分じゃないかなと思います。避難の関係で、自助、共助、公助という文言がどっかあったんだけど、それで、アンケートを取ってお願いをする、あるいは集計する中で、自助、共助、公助という順番が違うんじゃないかな。我々、行政の側、あるいは今の災害の中で、まず、公助があつて自助、共助違うのかなというふうに思うんだけど、やっぱりそれは、自助、共助、公助という順番というのは、それは国も含めてその流れはなるのかな。ちょっと気になったもので、そこから分かんないかな。どっかに、どこだったのかな。

○委員長（米田 達也） 木下課長。

○危機管理課長（木下 喜晴） 多分、文字では出してないと思うんですけど、私がコメントの中で、問いの20に関して、ほかの地域に比べて備えている率が低いよねというふうなところで、自助への取組の啓発が必要かなということを申し上げたかと思っております。

今、村岡委員のほうから、順番が逆じゃないかなということなんですが、発災した直後というのは自分の命を守るための行動、やっぱり自助というのが一番になります。その次に、近所の方で助け合っていただく共助というのが近くで助け合える格好。公助というのは、やっぱり一番、遠いところ、皆さんの被災された距離から遠くなってくるというところになってくるので、公助というのはどうしてもタイミングが遅れるというところで、やっぱり自助、まず自分で備えていただく、そこで補えない分は共助というふうな、建前みたいに聞こえますが、そのような形をお願いをしたいなというところでございます。

○委員（村岡 峰男） 文書表もあったので。事務概要ですか。

○委員（福田 嗣久） 事務概要の4ページ。

○委員（村岡 峰男） 事務概要のほうか。4ページの最後だな、その他のとこだな、4ページの。考え方は分かります。はい。

○委員長（米田 達也） ほかにありませんか。

じゃあ、部長、ちょっと1点、私のほうからお伺いしたいんですけど。津波のハザードマップの件なんですけれども、あれは、いろんな場でちょっと、ご存じのない方がやっぱりおられるので、見せたときに、浸水想定高さみたいなのは沿岸部で色分けして出てると思うんですけども、それが1,000年に一度の津波だったとか、津波の高さが何メートルっていう多分明記がされてないように思うんですけども、実際にお見せしたときに、何メートルの津波が来たときにこれは浸水想定出されてるんかっていう声を、ちょっとちらほら聞くもので、もしそれが出ないんであれば、大体どれぐらいの高さを想定されてハザードマップが作成されたかということ一度確認していただけないかなと思うんですけど、いかがでしょう。

木下課長。

○危機管理課長（木下 喜晴） この津波の想定につきましては、現在想定される最大の地震というのを想定したものでございまして、こちらのほうについては、確か切浜のほうで最大の津波が4.5メートルというのが基準になってつくられたものでございます。切浜の一番端っこのところが4.5メートルだと、一番岬のほうみたいなのとこだと思っておるんですけども、そちらで4.5メートルの津波を計測した場合、こういうふうな色がついたところに浸水されるというふうにお聞きをしております。

○委員長（米田 達也） ありがとうございます。

ほかにございませんか。

○委員（義本みどり） 1個いいでしょうか。

○委員長（米田 達也） 義本委員。

○委員（義本みどり） 先ほど12ページのところで、大学の先生のコメントがというところをもう一回おっしゃっていただいてもよろしいですか。自助がどうのこうのっていうところでしたかね、問い20のところですか。

○委員長（米田 達也） 木下課長。

○危機管理課長（木下 喜晴） 兵庫県立大学からのコメントといたしまして、問い20につきましては、

ほかの地域に比べても備えている率が低いというふうに言われました。ほかの地域だと、やっぱり津波警報以上が出たらすぐに避難を決めているというようなところが半数を超えるような地域もあるようにお聞きをしておりますので、やっぱり南トラの関係と日本海津波というので、そのやっぱり、これまでの取組の違いもあるのかなということはあるんですが、やはりちょっと低いなというふうな印象を受けていただいとるところでございます。

○委員（義本みどり） ありがとうございます。

○委員長（米田 達也） ほかにございませんか。

それでは、この件はこの程度にとどめたいと思います。

以上で、当局職員の方は退席いただいて結構です。お疲れさまでした。

暫時休憩いたします。再開は10時15分。

午前10時09分休憩

午前10時13分再開

○委員長（米田 達也） 少し早いですが、会議再開いたします。

それでは、（2）行政視察計画、管外視察研修についてを議題といたします。

管外行政視察は、例年7月に1泊2日で実施しております。本日、日程と行き先についてご協議をお願いします。 暫時休憩いたします。

午前10時10分休憩

午前10時20分再開

○委員長（米田 達也） 七尾市が駄目だった場合、ちょっと正副委員長にお任せしていただいて、近隣の市町でお願いしてみることということで、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（米田 達也） そしたら、それを正副委員長に一任願います。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（米田 達也） それでは、次に、昨年11

月に委員の皆様と協議、検討をしました防災対策調査特別委員会重点調査事項について、2024年度後期分として変更はないでしょうか。ちょっと資料のご確認お願いいたします。今送ります。送ります。

○委員（義本みどり） ありがとうございます。

○委員長（米田 達也） 昨日、文教の委員会で、10番、感染症対策等についてっていうのが、文教の委員会ではコロナ感染症対策っていうような文言になってて、もうそれ、削除してもいいんじゃないかっていうような案が出まして、削除をしてもいいんじゃないかっていう意見があったんですけども、こちらについて、感染症対策等って書いてあるので、いかがでしょう。

〔「置いといたらいいと思う」と呼ぶ者あり〕

○委員（木谷 敏勝） 感染症が何があるか分からへんし。

○委員長（米田 達也） じゃあ、当委員会としましては、この10項目を引き続き重点調査ということで行かせていただきたいと思います。

それでは、以上をもちまして本日の防災対策調査特別委員会を終了いたします。お疲れさまでした。

午前10時30分閉会
